

1. はじめに【大学としての施策】

大阪大学では、2016年4月、多様な個性が集う大学を目指して「男女協働推進宣言」を公表した。女性や次世代の若者などあらゆる人々の活躍に寄与する国立大学として本学はダイバーシティ研究環境実現に向けた取組を積極的に行っている。（写真1）

また、SDGs（国連の持続可能な開発目標）に示されているとおり、持続可能性を幅広い視点で考えることの重要性が示されており、キャンパスのトイレ問題を考えることは、SDGsのゴール5：ジェンダー平等（特に5.c）、ゴール10：様々な差別の解消（特に10.2）、ゴール16：包摂的な社会構築の促進（特に16.7）に、結びつく取り組みである。

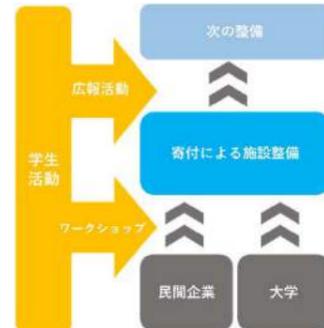
大阪大学90周年・大阪外国語大学100周年記念に際し、入学から1年半の間、全ての学部学生が学ぶ建物である全学教育講義B棟の1階を整備対象として大手住宅設備メーカーからの寄付によりパウダールームとトイレの整備を行うこととなった。

その設計を行うにあたっては、寄付者である民間企業と本学の学生を含めた協働のワークショップを計3回に渡って開催し、使いやすさや防犯性など学生ニーズを反映し設計することとなった。

また、完成後はこの取組を積極的に広報し、利用者である学生への周知を図るとともに、本学のダイバーシティへの取組を企業などの多様なステークホルダーにアピールしていくことで、新たな施設整備につなげていくことを目指している。（図1）



(写真1) 理系女子学生に向けたイベント

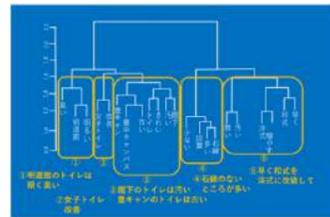


(図1) トイレ整備の実現スキーム

2. 持続的なトイレ整備につながる学生独自の活動【大阪大学トイレ研究会】

大阪大学トイレ研究会とは…

2018年4月にサークル結成。現在部員は13名。①「トイレを好きな人」を増やす
②阪大のトイレをきれいにする ③トイレの社会問題を解決する の3本の旗を掲げ活動。現在は②の阪大のトイレ改善に最も力を入れている。自称、「学内社会系サークル」「マイナーサークル界の新星」「トイレ業界の回し者」。まちかね祭での便器の屋外展示や、教職員との討論会「阪大トイレ会談」等で大きな話題になる。



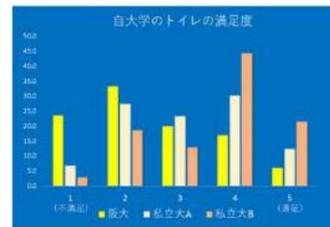
(図2) 意見をクラスター分析したまとめ

「阪大のトイレ改善」に向けた取組み

①学祭（11月まちかね祭）において、「トイレスタンプラリー」を実施。スタンプラリー参加者に阪大のトイレについて意見をもらい、分析した。（図2）

②他大学との連携

2018年8月に私立大学2校と合同で自大学のトイレの満足度についてアンケート調査を行い、満足度の低さと、においやイメージなどの課題を確認した。（図3）



(図3) 3大学合同のアンケート結果

③企業との連携

A社・・・文化祭で展示用の簡易便器をレンタルいただいた。

B社・・・ショールームに伺い、大学のトイレ事情についてレクチャーを受けた。

④大学構成員との連携

2019年1月に「阪大トイレ会議」を実施。大阪大学の様々なセクションの教員10数名と学生合わせて30名近くが阪大のトイレを良くするための方法を議論した。（写真2）



(写真2) 「阪大トイレ会議」の様子

以上の取組みから分析したデータなどを活かし大学のトイレ環境を改善する機会を探していた。このたび、寄付によりトイレを整備することとなり、データを活かしてトイレ改修ワークショップに参加することとなった。

3. 設計段階における学生活動との連携【学生+施設部】

設計するにあたり、ユーザーである学生の意見を反映するため、ワークショップを計3回に渡って開催し検討することとした。

〈ワークショップ参加メンバー〉

共通教育授業「女性リーダーとの対話」受講者の有志学生

大阪大学トイレ研究会 学生

寄付者である大手住宅設備メーカー女性設計担当者

施設部職員

共通教育科目「女性リーダーとの対話」について…多様な分野で活躍する女性リーダーの講義を通じて、現代社会の複雑性や多様性を学び議論する授業。



(図4) 事前アンケート



←ワークショップの様子
左：カラーサンプル選定の様子
右：レイアウト検討の様子

〈ワークショップ検討概要〉

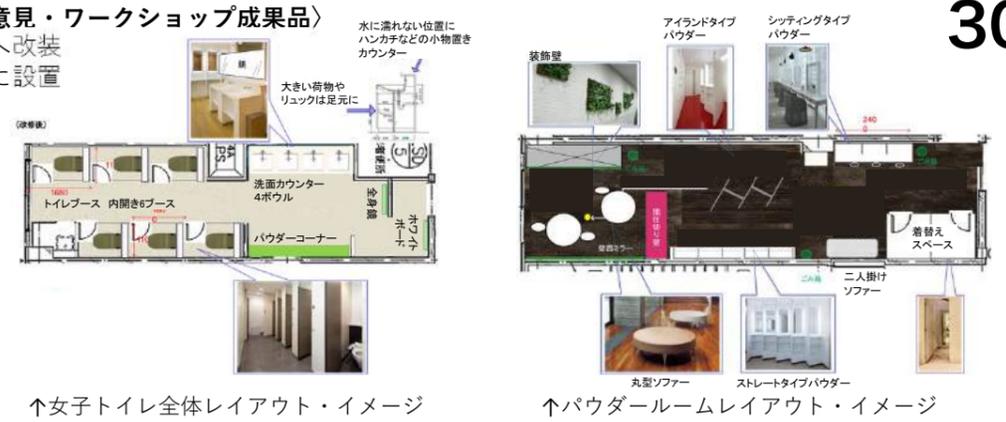
2018年11月27日（火）第一回：自己紹介、事前アンケート（図4）の結果共有・課題整理、ラップラン議論

2018年12月11日（火）第二回：1回目の意見に基づき具体的プラン提案
カラーイメージ・レイアウトについて意見交換

2018年12月18日（火）第三回：最終プラン提示

〈実現できたアンケート意見・ワークショップ成果品〉

- ・和式便器から洋式便器へ改装
- ・荷物掛けを適切な位置に設置
- ・着替えスペースの設置



↑女子トイレ全体レイアウト・イメージ

↑パウダールームレイアウト・イメージ

〈竣工写真〉



↑パウダールーム全景

↑着替えスペース

↑和式便器から洋式便器へ改装

4. 反響と広報での連携【学生+施設部】

完成後の反響

ワークショップに参加し、設計に参画していた大阪大学トイレ研究会がツイッターで本件について投稿。全国から反響が寄せられた。このことがきっかけとなり、「Buzz Feed Japan」や「デイリースポーツ」など、民間のメディアからも注目を集め、広く掲載されることとなった。

完成後、学内に広く広報することでユーザーである学生にたくさん利用して欲しいという思いがあった。そこで学生が作成しており親しみのある既存広報の媒体を主に活用して広報することとした。

〈掲載事例〉

- ①Handai Walker 8・9月号
（大阪大学生協学生委員会 発行）
- ②大阪大学POST
（報道サークル阪大POST 掲載）



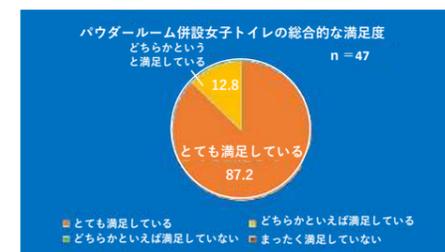
↑反響のあったツイッターの投稿
（約5000RT, 18000いいね）

5. 整備後の分析と今後の持続発展【学生+施設部】

運用開始半年後、トイレ研究会により今回の女子トイレの改修及びパウダールームの満足度等についてアンケート調査をおこなった。

満足度の結果（図5）を見ると87.2%が「とても満足している」、12.8%が「どちらかという満足している」と回答し、「どちらかという満足していない」「全く満足していない」と回答した人はおらず、とても満足度が高いことが分かった。気に入ったポイント（図6）として「洋式便器への改装」、「着替え用の個室の設置」が上位にあがっており、実現したアンケート意見が評価されていることがわかった。利用頻度についても約60%が利用しているという結果となった。（図7）

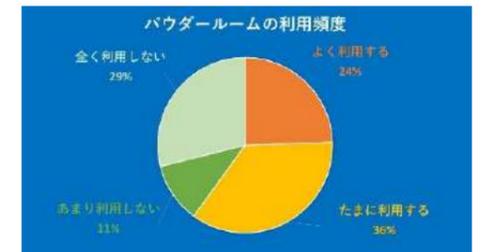
一方で不満点として、トイレ用擬音装置が無いことや清掃などをあげている声もあり、今回の整備をモデルケースにしながら、今後の整備に活かしていく。



(図5) 満足度の分布
回答者全員が満足



(図6) 気に入ったポイント



(図7) パウダールームの利用頻度
約60%が利用（女子）